

カービュー マーケットウォッチ (2010年12月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で前年同月比70.2%と大苦戦！

10年11月順位	10年10月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	21,400
2	(2)	→	フィット	ホンダ	16,677
3	(5)	↑	ヴィッツ	トヨタ	6,813
4	(4)	→	フリード	ホンダ	6,435
5	(3)	↓	カローラ	トヨタ	5,763
6	(8)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	5,382
7	(7)	→	パッソ	トヨタ	4,846
8	(15)	↑	マーチ	日産	4,249
9	(6)	↓	ヴォクシー	トヨタ	4,045
10	(9)	↓	ステップワゴン	ホンダ	4,041
11	(17)	↑	ノート	日産	3,841
12	(18)	↑	ジューク	日産	3,789
13	(10)	↓	ウィッシュ	トヨタ	3,728
14	(26)	↑	キューブ	日産	3,406
15	(11)	↓	スイフト	スズキ	3,226
16	(12)	↓	ノア	トヨタ	3,212
17	(14)	↓	エスティマ	トヨタ	2,978
18	(20)	↑	セレナ	日産	2,541
19	(25)	↑	ヴァンガード	トヨタ	2,476
20	(16)	↓	アルファード	トヨタ	2,411

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で前年同月比 70.2%と大苦戦！

ただ輸入車は前年を上回り、軽乗用車も下げ幅は縮小

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した 11 月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は 25 万 8732 台、前年同月比は 70.2%で 3 カ月連続で前年を下回った。新車購入補助金制度が終了した 9 月以降、3.2%減、25.9%減、29.8%減と、乗用車全体の販売台数の下げ幅は拡大しているが、特に落ち込みが激しいのが 5 ナンバーの小型車。11 月の販売台数は 9 万 173 台で、前年同月比 59.9%だった。3 ナンバー普通車の 8 万 8290 台／前年同月比 74.9%、軽乗用車の 8 万 269 台／同 80.1%と比べると、5 ナンバー小型車の下げ幅は最も大きい。それだけ補助金効果が絶大だったわけだ。

輸入車と軽乗用車を除く 3/5 ナンバーの国産乗用車（日産 新型マーチ分含む）の販売台数は 16 万 4981 台で、前年同月比 64.7%。メーカー別の合計では全メーカーがマイナスとなったが、「マーチ」や「エルグランド」が前年同月比 239.4%、497.7%とそれぞれ絶好調に売れている日産が前年同月比 78.7%、同じく新型「スイフト」が同 100.1%と堅調な売れ行きをみせるスズキも 91.8%と、ニューモデルが下落傾向を押し止めているメーカーもある。月間ランキングでは 19 カ月連続トップの「トヨタ プリウス」と 20 カ月連続 2 位のホンダ「フィット」は安泰。特にフィットはハイブリッド車が 9114 台とガソリン車の 7563 台を上回り、フィット全体では 1 万 6677 台、前年同月比 97.1%と、ほぼ前年並みをキープしている。補助金終了の反動減をニューモデル効果でカバーできているだけに、「トヨタ ラクティス」、「日産 セレナ」といった 11 月デビューのニューモデルの売れ行きに期待大だ。

軽自動車は、貨物車を含めた軽自動車全体でも 12 万 354 台、前年同月比 84.1%と、2 カ月連続の前年割れだが、下げ幅は 10 月の 16.2%減よりわずかに縮小。12 月に人気モデルの一つ、「ダイハツ ムーヴ」がモデルチェンジしているだけに、全体としては下げ止まり傾向となるかもしれない。

輸入乗用車はマーチなどの日本メーカー製を除いた海外メーカー製のみでも、1 万 2946 台で、前年同月比は 106.5%（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では 1 万 7721 台、同 131.7%）と 13 カ月連続で前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が前年同月比 85.7%ながら、2852 台で 2 カ月連続トップ。BWM（ミニを除く）は 2700 台で 2 位キープ、以下、3 位メルセデス・ベンツ 2037 台、4 位アウディ 1299 台、5 位ミニ 797 台と続くが、いずれも前年同月比はプラスとなっている。

■ココも気になる！その1

タントとワゴンRの年間1位バトルに注目

今年の乗用車全体での年間トップは「トヨタ プリウス」でほぼ決まり。11 月末時点で 29 万 7563 台となり、2 位「ダイハツ タント」とは 10 万台以上の差。90 年に「トヨタ カローラ」が記録した年間 30 万 8 台（当時のレビン含む）という史上最高記録を更新することも確定的だ。一方、軽乗用車部門では7年連続1位を続けてきた「スズキ ワゴンR」を抑え、「ダイハツ タント」がトップをキープ。11 月末時点で 539 台という僅差ながら、タントがワゴンRをリードしている。

ワゴンRは今年6月までトップを快走してきたが、タントが11カ月連続で前年を上回る売れ行き（1～11月累計で18万716台、前年同期比131.9%）となり、7月に逆転。タントは昨年12月に投入したエグゼが好調で、8月末にアイドリングストップ搭載車、11月にはお買い得な特別仕様車を投入して巻き返しを図るワゴンRを押さえ込む形となった。スズキは2006年まで34年連続軽自動車年間トップの座を保持してきたが、ここ3年は連続してダイハツに出し抜かれ、車名別でもダイハツ タントの後塵を拝するかもしれない。それだけに12月のタント vs ワゴンRの販売バトルは激しいものになるはずだ。

また軽自動車マーケットを取り巻く変化も見逃せない。軽自動車市場は2006年に初めて200万台を突破しているが、今年は170万台超と4年ぶりに前年を上回ることが確実。となると、トヨタ、日産も注目せざるを得ず、ついには9月に王者トヨタが軽自動車販売参入（ダイハツがOEM供給）を決定。12月には日産と三菱が共同で軽自動車企画開発会社を設立することを発表した。これまでダイハツとスズキの2強時代が続いてきた軽自動車市場に新風が吹き荒れることは間違いない。今年の軽自動車年間トップ争いだけでなく、軽自動車市場の新展開にも要注目だ。

■ココも気になる！その2

シトロエン、フィアットのラテブランドも伸張！

国産 3/5 ナンバー乗用車、軽乗用車が補助金制度終了の反動減に悩むなか、海外メーカー製輸入乗用車は堅調。13カ月連続で前年を上回り、1～11月累計でも16万2299台、前年同期比115.5%と2ケタ増となっている。これはエコカー減税適応車がよく売れていることに加え、シトロエンやフィアットなどの個性的なニッチモデルがヒットしたのが要因だ。

シトロエンは今年5月に「C3」「DS3」を投入。一目でシトロエンとわかる個性的なデザインはもちろん、価格も売れ筋のドイツ車レベルに抑えたことで好調な売れ行きとなり、シトロエンブランド全体で1～11月累計2052台、前年同期比164.3%を記録。年間では98年にメーカー直営のインポーターとなって以来、最高の年間販売記録2393台を上回る見通しだ。またフィアットは08年3月に導入した「フィアット500」が好調で、今年1～9月累計で3410台が販売され、前年同期比152.5%。フィアットブランド全体でも11月末時点で4963台、前年同期比132.7%となっている。

フィアットのインポーターであるフィアットグループオートモービルズジャパン（フィアットジャパン）は、日本ではフィアット、アバルト、アルファロメオの3ブランドを展開しているが、08年はフィアットとアルファロメオの2ブランドで5586台、09年からはアバルトを加えた3ブランドで6628台、今年では7500台を達成しそうな勢いだ。さらに来年は、今年7月に日本に投入された「アルファロメオ ミト」のAT仕様、TCT（乾式デュアルクラッチ内蔵AT）の拡販が期待できるだけに、ミトだけで年間2000台を狙うという。アルファロメオの今年1～11月累計は1565台だから、その強気な姿勢がわかるだろう。フィアットジャパン全体では3ブランド合計で1万台超が目標というが、こうしたインポーターの積極姿勢が輸入車市場を活性化させることは間違いない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
